

大槻重之著

インドネシア専科

第8巻 社会編 下

表紙絵 清原 嘉彦

運転手のウスマン君の故郷はバンドン郊外の田舎であった。例に漏れず、職探しで若い頃にジャカルタに出稼ぎに来て、幾多の仕事を経て現在ある様だ。或る時、彼と彼の実家に旅した折、隣の家の人々が絹の紡ぎをしている風景に、ビククリして……。日本の昔の姿？と。

前書・社会編（下）

社会編は扱う範囲が広いので上下巻に分け、「社会編下巻」では上巻の続きで民族としての「華僑と華人」を取り上げた。かつて華僑問題は東南アジアの地域問題であったが、中国人の世界各地への進出によって華僑問題は世界問題にグローバル化していることを痛感する。中国人は東南アジアの嫌われ者から世界の嫌われ者になりかねない。自己中心的で他を慮る配慮に欠ける民族性から生じる華人の生態をインドネシアでみておきたい。

「異邦人として」は初めからこのような章の設定があったわけでない。民族問題の諸々の現象の中でどのように整理するか判らなかつたものを苦し紛れに集めたものである。結果としてインドネシア民族の切り口を変えた側面になった。

「宗教」は日本人が最も苦手とする分野である。インドネシア人と日本人の民族性に共通性があるが、明らかな差は宗教である。日本人は宗教を敬遠しがちであるが、宗教の基盤であるインドネシア人の「信仰」については日本人に共感を得るものがある。

インドネシアは大きな「社会変動」の最中である。本書に掲載している社会変動の個々の記述では既に陳腐化しているかもしれないが、インドネシアの社会変動の底流は見誤っていないと信じている。

社会変動の中で現代的な事象を取り出して「現代社会」として別章立てにした。インドネシアの近年の著しい様変わりの中でも顕著なのはイスラム化現象であろう。世界に衝撃を与えたバリ島テロ爆破事件に関連するイスラム過激派を追加した。

私が初めてインドネシアに関心を持ち始めた 1980 年代には情報量は少なく時たまインドネシアのことが記載された新聞、雑誌を精読した。しかし近年の IT 技術の発展で毎日のインドネシアの新聞記事が日本に居ながらにして読める時代である。あまりにも情報が多すぎて整理できないのも困ったものである。

2008 年 6 月 著者しるす

インドネシア専科

編者前書き

2018年に亡くなった大槻重之さんから、この「インドネシア専科」をもう一度インターネットに挙げてほしいと生前依頼されたのでここに編集して掲載するものである。

編集にあたって、巻末の注を脚注に異動し、必要に応じて「編者註」も追加したものである。

図と写真は編者が作成・撮影して本文に追加したものである。

2019年6月

編者 田口重久 <omdoyok@infoseek.jp>

【社会編（下巻）目次】

F-8 華僑と華人		F-10 インドネシア人の信仰心	
666. 鄭和の艦隊	7	695. 重層信仰	37
667. 紅河事件	8	696. 潜在するアニミズム	37
668. 蘭芳公司	9	697. 精霊信仰	38
669. 鉱山労働者	10	698. 稲女神/デウィ・スリ	39
670. 白手起家	11	699. 山岳信仰	40
671. 西のユダヤ人	12	700. 巨石信仰	41
672. 衣錦還郷	13	701. 金属信仰	42
673. 同郷会館	14	702. 守護神のクリス	43
674. チャイナタウン	15	703. 陶磁器への憧憬	44
675. 建源財閥の盛衰	16	704. プサカ/家宝	45
676. 独立後の華僑	17	705. スラマタン/共食儀式	46
677. 華僑から華人へ	18	706. ワフユ/国王の権威	47
678. 華僑の国籍	19	707. クバティナン	48
679. 同化政策	19	708. バリ人の世界観	49
680. 華人への差別	20		
681. ボブ・ハッサン	21	F-11 宗教の並存	
682. 1998年5月事件の受難	22	709. 隣合うモスクと教会	50
683. 華人パワー	23	710. 休日の割り振り	51
684. 華人の行方	24	711. 多様なイスラム教	52
		712. 開祖ワリ・ソゴ	52
F-9 異邦人として		713. ワリ・ソゴ伝説	54
685. ユーラシアン	26	714. 異端の宗派	55
686. 現地生まれのオランダ人	27	715. キリスト教との併存	56
687. エルベルトフェルト事件	27	716. カトリック	57
688. アラビア人の末裔	29	717. プロテスタント	58
689. インド人の血脈	30	718. 仏教の系譜	59
690. ブタウィ人	31	719. バリ・ヒンドゥー教	60
691. マレーシアへの越境者	32	720. 結婚のハードル	61
692. オランダのアンボン人	33	721. 葬儀と墓地	62
693. 在日留学生	34		
694. 東ティモール難民	35		

F-12 変動する社会		F-13 現代社会の様相	
722. 人口 2 億人	64	739. 広がる水害禍	81
723. 子供は二人	64	740. 熱帯雨林の危機	82
724. 外島への移住	66	741. アラン・アラン砂漠	82
725. 移住民への反感	66	742. 森林火災	83
726. 地域から地域へ	68	743. ダムの水没補償	84
727. 肥大する都会	69	744. 続出する環境問題	85
728. 都市のキャン	70	745. 水道水の確保	86
729. インフォーマル・セクター	71	746. 学歴/新エリート層	87
730. マルシナ事件	71	747. 学生気質	88
731. 労働争議の変遷	73	748. ヤヤサン/財団	89
732. 農村の変容	74	749. 汚職の風土	90
733. 教育の普及	74	750. 公務員の給料	91
734. 新興の都市中間層	75	751. バリ島爆破テロ事件	92
735. 内在する民族問題	76	751ex. イスラム過激派の台頭	93
736. 民族紛争の火種	77	752. 報道規制の解除	94
737. アンボンの宗教対立	78	753. デモ隊の横行	95
738. カリマンタンの民族対立	79	754. 治安の悪化	96
		755. キャン改良計画	97